

# JSHCT Letter No.21

The Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation

日本造血細胞移植学会

January 2006

発刊発行:日本造血細胞移植学会 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65番地 名古屋大学大学院医学系研究科分子細胞内科学・血液内科内 TEL&FAX (052)719-1824  
発行者:小寺 良尚 編集責任:日本造血細胞移植学会編集委員会 発行:2006年1月

## 第28回日本造血細胞移植学会総会のお知らせ

第28回日本造血細胞移植学会総会を平成18年2月24日と25日に東京有楽町の東京国際フォーラムで開催させていただきます。本学会は造血細胞移植に携わるすべての医療関係者によって構成される特徴ある学会で、会員数も年々増加の一途をたどっています。本年度の学会のテーマは「質の高い治療をめざして」としました。強力な治療である造血細胞移植には治療の期待が高いものの、厳しい合併症が立ちはだかっているのが現状です。本会での成果が移植後の合併症を減らし、あるいは乗り越え移植患者さんの治療成績とQOLの向上に寄与できることを期待しております。

学会の概要と、主な日程については以下にご紹介いたします。

1. 会期 平成18年2月24日(金曜日)、25日(土曜日)
2. 会場 東京国際フォーラム(東京有楽町)
3. 主なプログラム

|         |    |   |
|---------|----|---|
| シンポジウム  | 1  | 造血移植後の合併症(1)                                  |
| シンポジウム  | 2  | 造血移植後の合併症(2)                                  |
| シンポジウム  | 3  | 造血移植後の適応拡大                                    |
| シンポジウム  | 4  | 移植患者の栄養管理                                     |
| 特別企画    |    | データ一元化  |
| ワークショップ | 1  | RIST① 臍帯血RIST, RIST vs CST etc.               |
| ワークショップ | 2  | RIST② 移植成績                                    |
| ワークショップ | 3  | 臍帯血移植   |
| ワークショップ | 4  | 非血縁者間移植                                       |
| ワークショップ | 5  | 幹細胞基礎・移植免疫                                    |
| ワークショップ | 6  | 自家移植  |
| ワークショップ | 7  | GVHD/GVL① マウスモデル・サイトカイン・多型性・HLA               |
| ワークショップ | 8  | GVHD/GVL② 臨床・acute GVHD・chronic GVHD・GVHD/GVL |
| ワークショップ | 9  | 看護:移植における合併症の看護                               |
| ワークショップ | 10 | 看護:感染管理                                       |
| ワークショップ | 11 | 同種移植① 白血病                                     |
| ワークショップ | 12 | 同種移植② リンパ腫                                    |
| ワークショップ | 13 | 合併症① 感染症                                      |
| ワークショップ | 14 | 合併症② 肺, 肝, 神経その他                              |
| ワークショップ | 15 | 看護:心理ケア・QOL                                   |

|             |                          |
|-------------|--------------------------|
| ワークショップ 16  | 看護：教育・その他                |
| ワークショップ 17  | 同種移植③ 再生不良性貧血・その他        |
| ワークショップ 18  | QOL, その他                 |
| ポスターセッション 1 | 同種移植① 白血病                |
| ポスターセッション 2 | 合併症① TMA・消化管合併症          |
| ポスターセッション 3 | 合併症② 真菌感染症・神経合併症・その他     |
| ポスターセッション 4 | RIST①                    |
| ポスターセッション 5 | 臍帯血移植① 合併症・移植成績          |
| ポスターセッション 6 | 臍帯血移植② 小児領域              |
| ポスターセッション 7 | 移植免疫                     |
| ポスターセッション 8 | GVHD/GVL                 |
| ポスターセッション 9 | QOL・晚期障害・ドナー関連・合併症       |
| ポスターセッション10 | 悪性リンパ腫に対する移植①            |
| ポスターセッション11 | 同種移植② 再生不良性貧血, 固形腫瘍, その他 |
| ポスターセッション12 | 同種移植③ 骨髄増殖性疾患・免疫不全症      |
| ポスターセッション13 | 看護：感染管理                  |
| ポスターセッション14 | 看護：移植における合併症の看護          |
| ポスターセッション15 | 同種移植④ 白血病                |
| ポスターセッション16 | 同種移植⑤ 白血病・MDS            |
| ポスターセッション17 | 合併症③ 臓器障害                |
| ポスターセッション18 | 合併症④ 感染症                 |
| ポスターセッション19 | 合併症⑤ 細菌感染・肺合併症           |
| ポスターセッション20 | RIST②                    |
| ポスターセッション21 | 悪性リンパ腫に対する移植②            |
| ポスターセッション22 | 多発性骨髄腫に対する移植・その他         |
| ポスターセッション23 | その他 輸血・QOL・クリティカルパス      |
| ポスターセッション24 | 看護：心理ケア・QOL①             |
| ポスターセッション25 | 看護：心理ケア・QOL②             |
| ポスターセッション26 | 看護：教育・その他①               |
| ポスターセッション27 | 看護：教育・その他②               |

モーニングセミナー2題

ランチオンセミナー8題

イブニングセミナー3題

市民公開講座(特別講演：日本科学未来館館長・宇宙飛行士 毛利衛氏)

#### 4. 学会奨励賞

一般演題(ワークショップ)の中から学会奨励賞を選んで総会の中で表彰いたします

#### 5. 宿泊・交通

学会指定の旅行業者を通じてお申し込み下さい。

# 造血細胞移植情報管理学(日本造血細胞移植学会)講座発足

理事長 小寺良尚

会員の皆様にはかねてよりお知らせ、ご審議いただいていた表記寄附講座が、この度平成18年1月1日をもち、名古屋大学大幸医療センターキャンパス(名古屋市東区)において発足いたしました。職員は、鈴木律朗助教授(1月1日発令)、吉見礼美助手(1月1日発令)、熱田由子助手(4月1日発令予定)の教官3名と、事務職員1名であります。併せて、本学会事務局(職員3名)、NPO法人臨床研究支援ユニットであるC-SHOTも隣接する部屋に移動いたしましたので、後述の目的を遂行するための効率の良い作業が出来ると思います。本寄附講座は学会のものであり、職員は全て、全国の会員の皆様の利益を考えて仕事をしようとの自覚を有しています。大幸医療センターは、これも後述の如くJR名古屋駅より公共機関でアクセスし易いところに位置しております。会員のお一人お一人が気軽に立ち寄られ、今日の造血細胞移植医療の問題、明日の造血細胞移植医療の姿につき自由に討論の出来るささやかなフォーラムになることを願い、お知らせの言葉といたします。

## 講座の目的：

- 1) 日本における造血細胞移植全国調査を一元的に担当し、登録率の向上、情報の精度向上を図る。
- 2) 全国調査から得られた結果の公表および活用を本学会の承認の下、データ管理委員会、臨床研究委員会、骨髄移植推進財団、日本さい帯血バンクネットワーク等との共同作業として行う。
- 3) 本学会の承認の下、造血細胞移植医療に関する臨床試験等の支援を通して、わが国での移植医療の更なる向上を目指す。
- 4) アジア地域での造血細胞移植症例の登録を各国と共同で実施し、情報交換を円滑にすることによりアジア地域での造血細胞移植医療の向上に貢献する。

## アクセス

### 名古屋大学大幸医療センター

造血細胞移植情報管理学(日本造血細胞移植学会)講座 電話：052-719-1973・74

住所：名古屋市東区大幸南1-1-20

交通：名古屋駅から地下鉄東山線藤が丘方面乗車栄駅乗り換え名城線名古屋大学方面乗車名古屋ドーム前矢田駅下車(10駅)。東へ徒歩10分。

## 有限責任中間法人日本造血細胞移植学会について

理事長 小寺良尚

先のレターNo.20でもお知らせしております本学会の法人化に向けては、現在、厚生労働省、担当の弁護士、公認会計士等の助言を得ながら理事会、在り方委員会の審議を経て公証人・法務局への中間法人法にそった定款案の相談を行っております。現在の任意団体である本学会の会員の総意で築いてきた姿を堅持し、会則、各種委員会の規約を尊重しながら作業を進めておりますが、公証人の了解が得られた時点で評議員会の皆様にお手紙にてお知らせをし、ホームページ「会員専用ページ」にて会員の皆様へ広報いたしますのでよろしくお願いたします。

## 造血幹細胞移植と感染管理認定看護師 —— 造血細胞移植看護セミナーを終えて ——

国立がんセンター中央病院 沼 直美

造血細胞移植看護ネットワークが移植学会の看護部会として新たな活動を始めたのを機に、それまでネットワーク活動の一部として行っていた勉強会は【造血細胞移植看護セミナー】と名称を変え、造血細胞移植看護研究会が企画運営を行っています。

造血細胞移植看護セミナーでは、年間3回のセミナーを開催しています。そのうち1回は開催地を地方都市とし、全国のナースに参加してもらえるようにしています。構成は2部構成となっており、前半は医師からの移植治療に関する講演、後半は看護師による講演を行っています。移植に携わる看護師の情報収集や意見交換の場として、また看護のレベルアップを目指してテーマの選定、企画をしています。一般の講演会と同様、講師による講演の後に質疑応答の時間を設けていますが、セミナー終了後に、時間内に答えきらなかった質問を含め『Q&A集』を作成しています。この『Q&A集』はセミナーのお知らせに同封したり、次のセミナーの参加者へ配布して参加できなかったセミナーでの情報を得られるようにしています。今後も会を重ねる毎に増やしていく予定になっていますので、日々の業務における多くの疑問に答えてくれるものになると期待しているところです。

私は、今年度1回目に開催された「感染管理」の講師を担当いたしました。移植学会から「移植後早期の感染管理」ガイドラインが出されて5年が経過し、多くの施設で移植病室の効率化を目指して管理方法が改善されてきています。参加者の中には「今更、感染管理？」と思った方もいたかもしれません。講義では感染管理の基本である標準予防策や感染経路別予防策、移植に特殊な保護環境、医療従事者の感染管理などの話をいたしました。質問はとてたくさんいただきましたが、その中で医療者のガウンテクニック、病室のオゾン消毒、オムツやリネンなど物品の消毒滅菌、面会廊下からの面会など過剰な感染対策が続けられていることがわかりました。また、現在の方法に疑問を感じながらも医師を含めたスタッフの協力が得られない、基準の変更に不安を感じ踏み切れないといった意見も出ました。時間がなくすべての質問にお答えできませんでしたが、このセミナーを通じてみなさまの疑問を解決する糸口がみつければ幸いです。

移植を始めたばかりのご施設や年間症例数が少ないご施設などでは、1例、1例、悩みながら基準を作成し取り組まれていることと思います。日々の疑問や悩みを是非、このようなセミナーを活用して意見交換しましょう。患者さまに安全で安楽な環境を整え、質の高い看護が提供できるよう全国の看護師が一体となって頑張りましょう。

私達は日々の移植医療に追われて、移植を受けて時間が経った患者様からのお話をじっくりと聞く機会がなかなかないのではないのでしょうか。今回は、自分たちが行っている医療を振り返り、明日のエネルギーにしたいと考え、移植を受けてがんばっていらっしゃる患者様に記事を書いていただきました。

### 造血幹細胞移植を受けた患者様から

時代が昭和から平成になって半年後の7月6日、私は慢性骨髄性白血病により骨髄移植を受けました。当時の私は、中学3年生になる1ヶ月ほど前に入院し同級生が卒業するころに退院しました。学校側はこのまま同級生と共に卒業することも可能だということでしたが、その頃の病棟は精神的な支えに

なるようなボランティアの先生方が来てくれてはいたものの、現在のような教育施設は確立されておらず、勉強もほとんどできていなかったのも、自分の意思で留年することを選択しました。それから高校を卒業するまでの4年間、多少の違和感を感じながらも温かな友人や家族、病院の先生や看護師の方々に支えられ楽しく過ごすことが出来ました。また、現在結婚して7年目になりますが、妻と出逢ったのも高校で同じクラスになった2年生の時でした。大学に入ってから、周りとの違和感も全く無く、大好きだった野球ではサークルでのきつい練習にも耐えられるようになり、より一層充実した生活を過ごせました。

この大学までの8年間で強く感じた事は友達の大切さでした。その時々と同級生はもちろんですが、私の場合は特に小学校・中学校のもともとの同級生です。病気をしてから常には1年先に卒業・進学・就職をしていく中でも私を忘れずに、今でもずっと支えてくれている友には本当に感謝しています。

移植や治療の影響については、現在主に3つの事柄があります。1つは極端に涙が出にくいことです。これに関しては両目で計4つある涙点にプラグを差し込んで鼻等に涙が流れ出るのを防ぎ、眼を潤していますのでプラグを入れて頂いてからは特に問題ありません。2つ目は肝機能障害です。移植以後ずっとほぼ同じ状態ですが、2年ほど前から肝臓を守る為の薬を飲み始めました。まあ一生付き合っていかなければならない症状なので悪化しないように気をつけて生活しています。3つ目は治療の一環での放射線の照射による無精子症です。専門医の診察で精子の復活は絶望的であることがわかりました。これに関しては自分ではどうすることも出来ないことです。ただ、それを承知の上で結婚してくれた妻と、更に内孫が出来ないにも拘わらず逆に同居を勧めてくれた妻の両親に感謝しています。

最後に社会復帰をして16年以上が経過した今思うことは、常に前向きに考えること、考えても仕方の無いことはなるべく考えないことが何より大切だということです。例えば私の場合「病気になった事が不幸」なのではなく「病気が治ったことが幸運」と思うようにしています。1年留年して出会った人達はもしかしたら一生出会うことが無かった人たちかもしれない。1年留年したからこそあの高校に入学でき、妻と出会うことが出来た。病気をしたからこそいろいろな大切なものに気付くことができた。病気のことに限らず、そんなふうにと考えると少しだけ前に進めるような気がします。

## 日本造血細胞移植学会平成17年度第二回理事会承認事項

(期日：平成17年9月17日、於横浜)

### I. 新薬承認に当たっての学会集計事業の特別対応について

#### A. 背景：

2004年度、2005年度と本学会員を介した形式で製薬企業からデータ利用に関する申請書がデータ集計事務局に届いております。いずれも造血幹細胞移植において重要な薬剤の申請に関して厚生労働省から全国調査データの解析結果を添付するように指示を受けているためであります。それぞれの薬剤は造血幹細胞移植において重要と考えられ、適正承認を得ることは患者にとって、移植医療チームにとって、また造血細胞移植学会にとっても有用と考えられます。現在のデータ利用申請の手続きでは、学会員からデータ利用申請書が届き、その利用承認はデータ管理委員会の(書面)審議で承認されます。しかしながらこの手続き(仕組み)では、企業は正式に学会に依頼をするということを経ずに解析結果を手に入れていることになり、また会員はほとんどその流れを知るべきがないという欠点があります。そこで製薬企業から薬剤の承認のためのデータ利用申請が出され、実際に利用することに

より新薬が承認されたという経過はデータ管理委員会のみでなく、理事会で把握、承認すべきではないかと考え、今回その場合の手続き方法に関して理事会で検討されました。本件を考える上で、データ利用の要請は、新薬承認に当たっての当該製薬会社からの要請というよりは、当局が製薬会社を介して学会に要請してきた、と捉える必要があると理事会は認識しています。当局は最近特にわが国のエビデンス（“エビデンス”のQualityは別として、新薬の承認前の臨床研究として用いられた国内データを学会が掌握し、その安全性と有効性即ち有用性が“公知”であることを、学会が責任を持って表明すること）を新薬承認に際して求めるようになっており、これは基本的には好ましいことであると考えます。従いまして、特に学会が承認を強く要望してきた新薬については、学会の姿勢を保ちながらも、迅速に対応する必要性を踏まえ、先の理事会にて以下の手続きを経ることにより表題の特別対応を行うことが承認されました。

## B. 手続き方法

- 製薬企業のデータ利用条件：造血幹細胞移植における重要薬剤の承認時に限る。
- 製薬企業からの窓口：理事長。
- 提出書類：データ利用申請書（会員が利用しているものと同じ書類）  
添付書類
  - ・申請理由書（当局からの要求及びその要求からどのような解析が必要かを明確に記載した書類）。
  - ・学会からの調査解析結果は、新薬の承認申請（企業）の利用目的外には使用しないことが保障された書類。
- 審査・承認機関：理事会。
- 製薬企業にraw datasetを渡すかどうか：否。
- 解析担当：原則的に全国集計事務局（raw datasetが企業にいかないことを保障する必要がある）。
- 解析結果通知方法：会員の誰かが責任を持って論文・学会等での発表、或は、全国調査報告書・ガイドラインモノグラムに掲載するなどして、会員には必ず通知する。

## II. 二次調査（追加調査）について

### A. 背景：

1993年から行われている日本造血細胞移植学会全国調査では、年に1度の全国調査（新規登録・追跡調査）が行われてまいりました。2年ごとに調査項目の内容がデータ管理委員会にて再検討され、随時調査項目の変更がなされてきています。しかしながら現在（2005年度調査）までに年に1度の全国調査以外の二次調査（追加調査）は1度も行われておりません。その背景には、全国集計事務局のマンパワー不足があり調査を担当できなかったという事情があります。幸い近年集計事務局のマンパワーは少しずつ強化されてきておりますので、重要な研究テーマに関して二次調査（追加調査）が必要と判断され、今後会員から、あるいは委員会やWGからそういった提案があった際の実施手順の作成が必要となってまいりました。二次調査（追加調査）の実施は、重要研究テーマに限り、また調査協力施設の負担を出来る限り増やさない努力を必須条件として、以下の実施手順が理事会にて承認されました。

## B. 実施手順

- 依頼者：評議員。
- 提出必要書類：A4用紙2枚程度に「背景、目的、対象(移植年、疾患、移植種類、ドナー種類、移植回数)、方法、予想される結果、発表予定、論文化予定、参考資料(文献など)」を記載。
- 提出先：全国データ集計事務局。
- 審査・承認機関：理事会・データ管理委員会・臨床研究委員会が審査・承認にかかわり理事会が承認を保障する。
- 調査方法：① 紙媒体での調査票を作成し、各施設に配布。  
② 次年度の全国集計調査項目に追加(入力プログラムのバージョンアップ時に追加)。
- 調査協力施設のインセンティブ：解析データセット内多数登録施設数施設が共著者となるようにする。
- 調査協力施設へのサポート：可能な限り学会としてCRC派遣などのサポートを検討する。

## 施設紹介

### 千葉大学医学部附属病院 血液内科

全国で12番目に政令指定都市となった千葉市は人口92万を擁し、いわゆる千葉都民が居住するベッドタウン地帯と、市街化が進んでいない田園地帯とをその市域に含みます。千葉大学医学部は1901年の千葉医専設立を嚆矢とし、1923年に現在地に移転し千葉医科大学となってからは、県庁がある旧市街域の東側に位置する小高い丘(「亥鼻山」と呼ばれます)の上にその歴史を刻んできました。1937年には当時東洋一とうたわれた旧病院が建築され、この建物は現在では医学部本館として使用されています。地上12階建ての現病院は1978年の建築ですが、血液内科病棟はその10階にあります。先程述べた立地条件に加え、周囲に高いビルが少ないという条件もあり眺望に優れ、冬晴れの朝は東京湾越しに丹沢の山並みや、富士の姿を望むことができます。しかしながら、現在の造血細胞移植に関するハードウェアは充分とは言えないものがあります。血液内科の病床数は31床で2004年の診療科再編を機に、混合病棟からほぼ血液単独の病棟に変わりました。クラス100の移植用クリーンルームは2階ICUに隣接して設けられた無菌治療室内に3床、10階血液内科病棟内に1床の計4床です。



血液内科の常勤スタッフは4名で、他に数名の医員・大学院生とローテート研修医が診療に従事しています。このような体制の下で、年間約20例の同種移植と約10例の自家移植を行っているのが現状です。1986年に第一例の同種移植を行って以来、今日まで積み重ねてきた症例数は累計で230例になりました。千葉県内では最も多い移植実績を有しているものの、昨今の移植適応範囲の拡大などを考慮すると、県内のニーズに充分に応えられていない面もあります。医学部附属病院という性格上、他の血液疾患全般の診療とのバランスを考慮せざるを得ず、造血細胞移植のみに特化することは不可能な状況です。患者さんは県内の関連施設(千葉市立青葉病院、社保船橋中央病院、済生会習志野病院、国保旭中央病院等)から紹介される場合が多いものの、都内や茨城県からの紹介も一定数あります。移植対象としてはやはり急性白血病が中心となっており、移植種別ではUR-BMTの比率が比較的高いことが特徴です。ここ数年は骨髄腫に対する自家/同種ミニのタンDEM移植や、神経内科と共同で行っているPOEMS症候群に対

する自家移植等、新たな試みもなされています。同種造血細胞移植の予後を大きく左右する合併症であるGVHDは研究面においても我々の大きなテーマであり、その成因・診断についての検討を免疫学的な手法も含め継続的に行っています。中でも、慢性GVHDに随伴する呼吸器合併症であるLONIPC(晩期発症非感染性肺合併症)の臨床像の解明において、当施設のデータを解析することにより大きな成果を挙げております。また、骨髄移植推進財団データ・資料管理委員会よりデータ供与を受け委託された慢性GVHDについての解析結果が、2005年のASHのoral sessionに採択され、本邦からのエビデンス発信の貴重な機会を得ました。

同種造血細胞移植の成績向上と患者さんのQOL改善のため、我々は同種移植を開始した当初より看護スタッフとの連携を重視しています。定期的な病棟カンファレンスの開催により入院症例全般について情報の交換・共有を図り、移植症例については移植前カンファレンスで問題点の洗い出しを行っています。また、PBSCTの採取・保存に際しては輸血部スタッフの協力を仰ぎ、移植後のCsA/FK血中濃度測定は薬剤部で行っていただく等、院内各部門のご協力を得られる体制を築き上げて参りました。

現状ではハード面の制約や移植スタッフのマンパワー不足等の問題もありますが、明るいニュースとして2007年度に完成予定の新病棟の建設があります。新病棟移転後は個室の数が現在の倍となり、血液病棟内にクリーンルームが設置されることにより、マンパワーの集約が図れ、より効率的な運用が可能となることが期待されています。今後もスタッフの力を結集し、より質の高い移植医療を目指して眼前の課題を一つ一つクリアして行きたいと考えております。

(千葉大学医学部附属病院 血液内科 趙 龍桓)

## ロゴマークの募集……締切り期間延長しました

レターNo.20で募集をしております本学会のロゴマークについては、締め切り期日の延長を以下のようにいたしました。引きつづき会員の皆様の応募をお待ちします。

尚、採用作品は、後ほど電子ファイル等のご提供をお願いいたします。

- ★ 応募資格 : 本学会の会員であること。
- ★ 応募の作品点数 : 1人1点。
- ★ 応募の作品サイズ : A4サイズ(297mm×210mm)程度。色、縦横自由。  
注)1. 手書き:ケント紙に描くこと。2. グラフィック画像:写真高画質の光沢紙に印刷のこと。
- ★ 作品について一言 : 100字以内。
- ★ 募集締切り日 : 2006年2月17日(金)。
- ★ 送付先 : 日本造血細胞移植学会事務局:名古屋市昭和区鶴舞町65番地 〒466-8550  
名古屋大学大学院医学系研究科分子細胞内科・血液内科内  
Tel & Fax:052-719-1824 (注)左下に「ロゴマーク応募作品」と記載のこと。
- ★ 選考方法 : 第28回日本造血細胞移植学会総会会場で展示の上、会員の投票による。
- ★ 発表表 : 第28回日本造血細胞移植学会総会「平成17年度総会」。
- ★ 作品賞 : 当日発表

日本造血細胞移植学会編集委員会

会員名簿 P435の訂正をいたします。 /米山浩志氏

(誤)千葉大学血液内科 (正)都立清瀬小児病院血液腫瘍科 東京都清瀬市梅園 1-3-1

学会事務局の電話番号並びにFAX番号が変更しました。(新)Tel&Fax:052-719-1824

郵便物について:会則に沿って従来の住所でお送り下さい。新住所に転送されます。